

## 平成29年度第2回愛媛県八幡浜・大洲構想区域地域医療構想調整会議の開催結果

- 1 会議の名称 平成29年度第2回愛媛県八幡浜・大洲構想区域地域医療構想調整会議
- 2 開催日時 平成30年2月13日（火曜日） 19時00分から20時30分まで
- 3 開催場所 南予地方局八幡浜支局7階大会議室(八幡浜市北浜1-3-37)
- 4 出席者 委員15名（うち1名代理）、随行者9名、事務局7名、傍聴者4名
- 5 会議の内容 [全部公開]

### ○議事

#### (1) 新公立病院改革プラン・公的医療機関等2025プランについて

事務局説明（資料1～3）

：議事の目的について資料1、1-1を示し、説明した。また、構想区域内の状況について資料2、3により説明した。

#### 【公立病院】

##### ① 市立八幡浜総合病院（資料4-1） / 上村委員

- ・ 災害拠点病院としてDMAT2チームを有し、原子力災害等の災害医療への対応も充実させている。
- ・ 現在、産婦人科の診療を一部再開しており、平成31年度には産科も再開する予定。
- ・ 非稼働病床（42床）、土曜日の二次救急受入休止の要因は、深刻な看護師不足であり、奨学金制度でなんとか看護師数を確保している状況。看護師数が充足すれば、非稼働病床（42床）の再稼働や土曜日の二次救急受入再開は可能。
- ・ 今後、急性期病院として維持していくか、回復期機能を強化すべきか周囲の医療機関の状況等を見て検討することとしているが、引き続き二次救急の受入は維持していく。
- ・ 悪性疾患の手術対応や、終末期等の在宅医療充実のため関係スタッフのスキルアップ等管内医療機関に対する支援体制の構築を目指していく。

##### ② 市立大洲病院（資料4-2） / 市立大洲病院事務長

- ・ 診療科については現状維持。
- ・ 病床機能については、平成28年度に包括ケア病床を新設し、回復期へ機能転換を行っており今後も現在の病床機能を維持する計画。
- ・ 平成30年4月から、急性期はDPCへ移行する。

##### ③ 西予市立西予市民病院（資料4-3） / 末光委員

- ・ 診療科については、現状維持。常勤医師確保が可能であれば診療科を増やしたい。

- ・平成30年に西予市立2病院あわせた救急体制の見直しを計画しており、二次救急は西予市民病院に一本化する計画。
- ・病床数としては、在宅医療への移行促進及び野村病院と協力により、西予市民病院としては療養病床をなくし、152床すべて一般病床とすることとしたい
- ・看護師不足のため患者が受け入れられず、療養病床の稼働率が低迷している。

④ 西予市立野村病院（資料4-3） / 代理：西予市健康づくり推進課 係長

- ・患者の多くは野村・城川地区住民であるが、地区の人口も患者数も減少している。
- ・医師数の減少に伴い診療時間も減っていることから患者数の減少を来たしていると考える。
- ・現在常勤医師は5人で、中でも外科系医師は1人であり月15回の宿直を余儀なくされている。
- ・看護師も募集はするものの、応募がない状況。
- ・定年を間近に控えた職員も多く、このままでは職員数はさらに減少する可能性がある。
- ・病床数を縮減し、西予市民病院と連携して医療提供体制を維持していく。
- ・国保診療所の廃止に伴い、巡回診療等へき地医療を担っていく必要があると考えている。

【公的病院】

⑤ 喜多医師会病院（資料4-4） / 住元委員

- ・循環器以外の医師が不足しており、救急輪番制に参加できない。
- ・外科系医師が不足しているため、他病院へ紹介せざるを得ない。
- ・医師・看護師等スタッフの高齢化が顕著である。
- ・地域完結型医療を提供するために、診療科の充実や他医療機関との連携が必要。
- ・医師会立病院であることから、地域の開業医との密に連携しながら診療に当たっているが、地域の開業医についても高齢化が顕著である。（医師会会員の平均年齢は65.6歳、53.3%が65歳以上）
- ・大洲市では市内複数の病院で医療分野ごとに機能を分担してきたが、将来的に医療提供体制を維持するためには、人的資源を含め分散した医療資源を集約し、病院の統合・再編も視野に検討する必要があると感じている。

《質疑・その他》

○市立八幡浜総合病院 上村委員

市立大洲病院では、在宅医療患者数を計上しているがどのようなケースか。現在、積極的に在宅訪問看護に対応してくれる訪問看護ステーション等も増えているなか、市立病院としては在宅医療についてのバックアップに徹し、訪問看護は民間にお願いすると

いう住み分けは考えられていないのか。

⇒ (市立大洲病院 谷口委員、事務長)

医師による往診・訪問診療は行っておらず、現在、担当スタッフ1名が訪問看護を行っている。対象患者は透析患者を中心に1日4～5人、遠くは八幡浜市大島まで対応しており今後も継続していく。

○ 市立八幡浜総合病院 上村委員

協議内容を受けて、大洲中央病院はどのように考えるか。

⇒ (大洲中央病院 大久保委員)

各医療機関の問題意識を共有できたことについて安心できた面もある。

ただし、各医療機関、病床稼働率の上昇を目指すという説明であったが、実際のところ非常に厳しいのではないかと思う。特にDPCに参加するとなると、平均在院日数は短縮方向へ進み、そのうえで稼働率の上昇を実現することは非常に困難なのではないか、と感じる。

ご指摘があったとおり、大洲市内では4件の医療機関が医療を分担しているが、効率化を図るため病院の統合や集約を検討する必要があると感じている。さらに、管内各市町において、人口は減少の一途となるのは明らかであり、行政単位の見直しも含めて抜本的な検討が必要ではないかと考えている。

○ 八幡浜保健所 河野委員

八幡浜保健所管内においては、実際のところ医療圏として八幡浜地区、大洲・喜多地区、西予地区それぞれで機能している。

八幡浜地区においては、市立八幡浜総合病院が中心に、救急医療や在宅医療をはじめ医療提供体制について検討されており、西予地区は、西予市民病院、野村病院の2つの西予市立病院が再編を計画し医療提供体制の維持に努めているところ。

大洲・喜多地区については100床前後の病院が4病院あり、医療機能提供体制の維持・構築のため、統合や集約も視野に同地区での検討を進めてほしい。

[事務局]

南予地方局健康福祉環境部

八幡浜支局企画課

電話 0894-22-4111

FAX 0894-22-0631